地域の生き物探検

時　期	春・夏・秋・冬
時　間	1～2時間
場　所	草地，水田，林など

○身近な地域にどのような生き物がすんでいるかを調べる。
○生き物の生活の様子，その生き物がすむ地域の環境の様子について考える。

ねらい

親しむ　・身近な環境に興味をもち，積極的にかかわろうとする態度を育てる。

知　る　・生き物の見つけ方や種類，生活のようすについて知り，地域の環境について自ら問題を見つけて多面的に考える能力を育てる。

活動展開例　第４学年　理科「季節と生物」

準備物

・記録する時に必要なもの（バインダー，ルーペ，双眼鏡，あみ，虫かご，プラスチックケースや密閉型のプラスチック容器，デジタルカメラ，分類用のポケット図鑑など）
・服装として（長そで長ズボンの服，ぬれてもよいくつ，軍手またはビニール手袋など）
・その他（救急箱など）

展開

時　間	活　動　内　容	留　意　点
事　前	○地域の中で，調査をしやすい安全な場所を選んでおく。	・野外には毒をもつ生き物も多いため，事前に安全確認を行い，活動の際には救急箱を持参する。
30分	○ポイントを決め，生き物を探す。	・グループで行う際，それぞれのグループで水辺，草地，木の上を見るなど，調査のポイントを決めてから行うとよい。 ・鳥などの観察には双眼鏡を持参するとよい。また，小さな生き物の観察にはルーペが適している。 ・見つけた生き物について，その種類を調べ分類するために，ポケットタイプの図鑑等を用意しておくとよい。
30分	○確認できた生き物についてその種類を調べると同時に，必要に応じて採集して種類や特徴を記録する。	・必要に応じて，生き物たちは採集して観察するが，観察後は逃がすことが望ましい（活用ガイド参照）。 ・網は虫とり用，魚とり用の両方を用意して，用途に応じて使い分けるとよい。

展開			・採集した生き物の一時保管用に，虫かごや生物飼育用のプラスチックケース，ふたに小さい穴を開けた密閉型のプラスチック容器を用意しておく。
	10分	○調べた場所の様子や，採集した生き物をデジタルカメラで記録する。	・１年を通じて同じ生き物を観察しその変化を記録していく。
	20分	○採集した生き物から，その地域の環境（植物・他の生き物等）とのつながりについて話し合う。	・四季によるちがい，他の生物との関わりなど，気付いたことについて話し合うようにする。

活用ガイド

○探検場所として考えられるフィールドとそこで出会える生き物

・林　　カブトムシ　オニヤンマ　シジュウカラ　コナラ　など
・草地　　カマキリ　ヤブキリ　ニホンカナヘビ　ヨモギ　タンポポ　など
・水田　　トウキョウダルマガエル　タニシ　カブトエビ　オモダカ　など
・池や川　　ザリガニ　メダカ　オイカワ　ウグイ　ハクセキレイ　カナダモ　など
・学校　　ツマグロヒョウモン　シオカラトンボ　ヒヨドリ　サクラ　ナズナ　など

中学年

「近くに自然がない」といった話を耳にすることがあるが，さまざまな樹木が植えられ，雑草が生え，プールのような水辺もある学校の敷地内こそ，探検にふさわしい場所である。

花が植えられていることで，チョウをはじめとする多くの昆虫たちもやってくる。安全確認とともに，しっかり事前調査を行い，たくさんの生き物と出会える機会をつくることができるようにしたい。

○生き物を持ち帰る際，逃がす際の留意点

季節による環境の変化で生き物が変化していく様子を観察するために，採集した生き物はできるだけ持ち帰らないことが望ましい。ただし，体の仕組みや捕食する様子について，じっくりと観察する場合，教室で飼育することも考えられる。その際，飼育環境や食べ物などについて事前に調べておく必要がある。また，地域の個体群にダメージを与えたり，世話をしきれないほど取りすぎたりしないこと，観察が終わったら四季を通じて同じ種類の生物を観察していくことも考慮し，元の場所に戻すことが大切である。

また，近年，もともとその場所にいなかった生物を放したために，その場所の生態系がこわれてしまう例も多い。また，特有の病原菌を保持しているものもいる。魚やカエルなどについては，死んでしまったら埋めずに「燃えるゴミ」として出すことや，その際，児童に対して道徳的配慮をすることなどについても，留意したい。

○探検に便利な道具，図書

100円ショップなどで生物観察用のさまざまな便利グッズが販売されている。ルーペにもさまざまなものがあり，そのまま見る，ケースに入れてみるなどの用途に合わせてそろえておくのもよい。密閉型のプラスチック容器に穴を空け，園芸用のスポンジを入れた物などは，水生生物を一時的にストックしておくのに便利である。

生き物の種類を調べるための図鑑も売られていることがある。図書室の図書では重い，持ち出せないといったことがあるため，理科授業専用に持ち出すことを前提としたときには，買いそろえておくと便利である。

○活動にあたって参考となる文献

・旺文社編　「野外観察図鑑」全10巻　旺文社（1998）
「①昆虫」「②植物」「③動物」「④魚」「⑤鳥」「⑥貝と水の生物」が，野外で生物の種類を調べる際に携帯しやすい。また，「⑨生き物の飼い方」は，採集の仕方や一時的に飼育をする際に役立つ。

・今泉　忠明　他　監修　「新ポケット版学研の図鑑」全12巻　学研（2011）
「①昆虫」「②植物」「③どうぶつ」「④水のいきもの」「⑨魚」は野外で，「⑧飼育・栽培」は持ち帰ってからの一時飼育・観察に役立つ。

・メダカ里親の会　「田んぼのまわりの生きもの〔栃木県版〕」　下野新聞社（2004）

○探検の際の安全対策

きまり１：水に入るときは膝下までの深さ
きまり２：脱げにくい靴で，半袖半ズボンはできるだけ避ける
きまり３：引率は最低２名
きまり４：毒ヘビとハチ，毒草に関する情報をしっかり把握しておく

○活動の様子

学校近くの公園での探検の様子

水田脇の用水路での観察の様子

水田で見つけたトウキョウダルマガエル

羽化するオニヤンマ

中学年